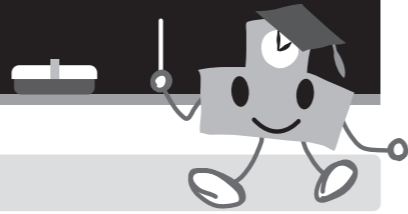


### 小学校の事例 手稲区 富丘小学校

# カミネッコンを使って苗を育て、植える。地域の森をつくる活動。

「カミネッコン」という埋めると土に還る容器を使って植樹を体験。大学教授の協力により、森林再生についても学習し地球環境について考える心を育てる取組。



## 内容 カミネッコンで苗づくり

本校は、10年前に学校地域連携事業のモデル指定校に選ばれたことをきっかけとして、緑を増やす活動に取り組んできた。7年前からは北大の教授とつながりができ、先生が発案した「カミネッコン」を使った植樹に取組むことになった。カミネッコンは土に埋めると自然に還るダンボールで作った植木鉢で、培養土の中に詰めて植樹する場所に置いておくと、自然と根付くという特性のものである。

カミネッコンを使った植樹活動は本校の総合的な学習の時間の中に定着しており、毎年、カミネッコンで小さな苗を育て、それを6年生が手稲中学校の山側にある空き地に植えている。また、以前に植えた苗がどの位成長しているかの観察を行う年もある。中には育っていない苗もあり、子供たちは「環境を考えて緑を増やすことは、長い年月がかかる」ということを感じ取っているようすであった。



カミネッコンの作り方を聞くようす



苗を入れ土をかぶせる

## 今後 地域の森林再生から地球環境を考える

子供たちが実際に苗を育て植樹できるこの活動は、自分たちにできるエコ活動であり、大変よい体験となっている。総合的な学習の時間としては「森林再生の具体例」や「砂地を森林に変える技術」について大学教授から学ぶことができおり、子供たちは森林再生を願い、地球環境を考えることについて新たな認識をもつことができるようになった。



植樹について学ぶ

現在、植樹活動の主体は6年生であり、5年生の子供たちからは「来年は僕たちが植樹をし、育てるんだ!」という、責任感と期待にあふれた声を聞くことができる。毎年最終学年が植樹を行うことで、自分たちが育った地域の環境について考え、社会の一員として環境を想う心が育まれている。



植林にカミネッコンを設置

## 「カミネッコン」(型枠)の組み立て方



1 カミネッコンの外壁をつなげる。この時の差し込み方は、外壁側から挿しこむ。



2 羽を折り目に沿って5枚外側に折り、残りの壁の羽を内側に折る。



3 羽が内側にすべて入り、壁の中羽を同じ向きに揃える。



4 完成。

広げよう  
つなげよう  
環境学習の輪



実施校から  
メッセージ

平成21年度は、本校が毎年植樹活動をしているというつながりから、札幌市主催の「さっぽろふるさとの森づくり植樹祭」への共同参加の要請があり、市民の方や企業、団体と共同で植樹を行いました。場所は手稲区の「山口緑地」。この植樹祭では一度に、イタヤカエデやハルニレなどの苗木およそ4,000本が植えられました。